Osaka University Knowledge Archive

Title	Incidence of gastric adenocarcinoma among lesions diagnosed as low-grade adenoma/dysplasia on endoscopic biopsy: A multicenter, prospective, observational study
Author(s)	前川, 聡
Citation	大阪大学, 2018, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/69408
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

[Format-H07]

論文審査の結果の要旨及び担当者

（申請者氏名）前川　聡

		（職）	氏　　名
論文審査担当者	主　査	大阪大学教授	竹原徹郎
	副　査	大阪大学教授	土岐祐一郎
	副　査	大阪大学教授	桑木実矢

論文審査の結果の要旨

胃の内視鏡生検組織による腺腫と癌の鑑別はしばしば困難とされ、生検によって胃腺腫と診断された病変を内視鏡的に切除した結果、癌と診断される事があるため、臨床的に問題となる。そこで内視鏡生検にて胃腺腫(low-grade adenoma:LGA)と診断された病変を内視鏡的に切除し、最終的に癌と診断される割合を評価することを目的に多施設前向き観察研究を行った。大阪大学関連10施設において内視鏡生検にて胃腺腫と診断された95症例104病変を対象とした。すべての組織標本に対して病理学的中央判定を行った結果、生検標本にて胃LGAと診断された解析対象病変は46例で、それらの病変のうち内視鏡切除後に癌と診断された病変は7例(15%)であった。内視鏡生検によって胃LGAと診断された病変は生検標本と切除標本の病理診断に解離がある可能性が示唆され、治療方針を検討する上でのエビデンスの一つになる結果を得られたことから、学位に値するものと認める。

論　文　内　容　の　要　旨
Synopsis of Thesis

氏　名 Name	前川　聡
論文題名 Title	Incidence of gastric adenocarcinoma among lesions diagnosed as low-grade adenoma/dysplasia on endoscopic biopsy: A multicenter, prospective, observational study (胃良悪性境界病変の担癌率に関する多施設前向き試験)

論文内容の要旨

〔目　的〕

胃の内視鏡生検組織において腺腫と癌の鑑別はしばしば困難とされる。内視鏡生検にて胃low-grade adenoma (LGA) と診断された病変の内視鏡的切除標本で癌と診断される割合を評価することを目的に多施設共同前向き観察研究試験を行った。

〔方法ならびに成績〕

大阪大学関連10施設において内視鏡生検で胃腺腫 (Vienna分類category 3 もしくは4.1) と診断された95症例104病変を対象とし、すべての組織標本について病理学的中央判定を行った。主要評価項目は生検にて胃LGAと診断された病変を内視鏡的に切除し、最終的に癌と診断される割合である。副次評価項目として、切除標本の組織学的所見、癌と診断された病変の臨床病理学的特徴などを解析した。104病変のうち中央判定で生検組織にて胃LGAと診断された病変は47例で、それらの内視鏡切除組織で癌と診断された病変は7例 (15%) であった。最小の癌病変は6mmであり、腫瘍径の大きい病変で担癌率が高い傾向を認めた。

〔総　括〕

内視鏡生検で胃LGAと診断された病変でも内視鏡切除後に癌と診断される症例が多く存在し、生検標本と切除標本の組織学的診断に解離がある事が示された。